



平成30年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年7月14日

上場会社名 松竹 株式会社 上場取引所 東 札 福
 コード番号 9601 URL http://www.shochiku.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 迫本 淳一
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 尾崎 啓成 TEL 03-5550-1699
 四半期報告書提出予定日 平成29年7月14日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年2月期第1四半期の連結業績（平成29年3月1日～平成29年5月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第1四半期	24,887	5.8	2,426	11.0	2,116	12.2	1,066	△8.8
29年2月期第1四半期	23,529	2.6	2,186	49.8	1,885	59.6	1,170	44.9

(注) 包括利益 30年2月期第1四半期 814百万円 (△57.5%) 29年2月期第1四半期 1,917百万円 (△16.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第1四半期	7.76	—
29年2月期第1四半期	8.51	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年2月期第1四半期	199,338	86,370	43.3	627.89
29年2月期	198,769	86,117	43.3	626.10

(参考) 自己資本 30年2月期第1四半期 86,281百万円 29年2月期 86,039百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	—	0.00	—	4.00	4.00
30年2月期	—	—	—	—	—
30年2月期(予想)	—	0.00	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

平成29年2月期 期末配当4円00銭には、特別配当1円00銭が含まれております。

※当社は、平成29年9月1日を効力発生日として普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施するため、平成30年2月期(予想)の1株当たり期末配当金及び年間配当金合計については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載しております。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

3. 平成30年2月期の連結業績予想（平成29年3月1日～平成30年2月28日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	48,840	2.1	3,770	△9.6	3,310	△10.9	1,770	△23.7	12.88
通期	94,790	△1.4	5,450	△27.7	4,540	△31.5	2,500	△32.6	181.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※通期の連結業績予想における1株当たり当期純利益については、株式併合の影響を考慮しております。詳細については、「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー 社（社名） ー 除外 ー 社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年2月期1Q	139,378,578株	29年2月期	139,378,578株
② 期末自己株式数	30年2月期1Q	1,962,673株	29年2月期	1,956,290株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年2月期1Q	137,418,634株	29年2月期1Q	137,438,711株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（株式併合後の配当及び連結業績予想について）

当社は、平成29年5月23日開催の第151回定時株主総会において株式併合について承認可決され、平成29年9月1日を効力発生日として、普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施する予定であります。なお、株式併合考慮前に換算した平成30年2月期の配当予想及び連結業績予想は以下のとおりとなります。

1. 平成30年2月期の配当予想
1株当たり配当金 期末 3円00銭
2. 平成30年2月期の連結業績予想
1株当たり当期純利益 通期 18円19銭

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する説明	2
(2) 連結財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、国内では政府の景気対策等の効果もあり緩やかな回復基調に推移したものの、海外経済の不確実性や金融市場の変動の影響が懸念されるなど、依然不透明な状況が続いています。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高24,887百万円(前年同期比5.8%増)、営業利益2,426百万円(同11.0%増)、経常利益2,116百万円(同12.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,066百万円(同8.8%減)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

配給は、「PとJK」等がティーンの女性を中心に支持を集めヒットしました。5月には山田洋次監督が贈る喜劇映画の続編「家族はつらいよ2」が公開され、好評を得ました。興行は、当社配給作品の他、「美女と野獣」等のヒット作品を上映し収益に貢献いたしました。テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売等は堅調に推移いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は14,697百万円(前年同期比11.3%増)、セグメント利益は1,473百万円(同6.4%増)となりました。

(演劇事業)

歌舞伎座は、「三月大歌舞伎」「團菊祭五月大歌舞伎」を中心に好成績を収めました。新橋演舞場「滝沢歌舞伎2017」、大阪松竹座「関西ジャニーズJr.春のSHOW合戦」「五月花形歌舞伎」等が高稼働いたしました。その他、4月の赤坂ACTシアター「赤坂大歌舞伎」や明治座「五月花形歌舞伎」を軸に収益に貢献いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,205百万円(前年同期比6.9%増)、セグメント利益は439百万円(同32.1%増)となりました。

(不動産事業)

不動産賃貸では、歌舞伎座タワー、築地松竹ビル(銀座松竹スクエア)、東劇ビル、新宿松竹会館(新宿ピカデリー)、有楽町センタービル(マリオン)、松竹倶楽部ビル、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫、大阪松竹座ビル(地下飲食街)等が満室になっており、全体でも高い稼働率で安定収入に貢献しました。また、各テナントとの賃料交渉にも誠実に対応し、利益確保に努め、効率的運営、経費削減を推進し、計画どおりに利益を確保しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,570百万円(前年同期比0.6%増)、セグメント利益は1,147百万円(同2.2%増)となりました。

(その他)

プログラム・キャラクター商品販売は、当社配給作品の「劇場版 黒子のバスケ LAST GAME」「PとJK」等が好調でした。また、松竹歌舞伎屋本舗も引き続き好調で、収益に貢献いたしました。貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調な成績をあげております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,414百万円(前年同期比28.0%減)、セグメント利益は98百万円(同257.8%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ569百万円増加し、199,338百万円となりました。これは主に現金及び預金(責任財産限定対象)が減少したものの、受取手形及び売掛金の増加等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ316百万円増加し、112,968百万円となりました。これは主に長期借入金が増加したものの、支払手形及び買掛金の増加等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ252百万円増加し、86,370百万円となりました。これは主にその他有価証券評価差額金が減少したものの、利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の連結業績予想につきましては、当第1四半期連結累計期間の業績及び今後の見通しを検討した結果、現時点においては平成29年4月14日付「平成29年2月期 決算短信」にて発表いたしました連結業績予想からの変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	17,038	16,039
現金及び預金（責任財産限定対象）	11,564	10,439
信託預金（責任財産限定対象）	3,244	3,323
受取手形及び売掛金	6,822	8,399
商品及び製品	1,474	1,545
仕掛品	3,244	3,365
原材料及び貯蔵品	83	81
その他	2,926	3,725
貸倒引当金	△10	△8
流動資産合計	46,387	46,910
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,943	16,738
建物及び構築物（責任財産限定対象）（純額）	19,187	18,966
信託建物（責任財産限定対象）（純額）	10,597	10,418
設備（純額）	9,323	9,010
土地	21,998	21,998
信託土地（責任財産限定対象）	18,751	18,751
その他（純額）	5,509	5,438
有形固定資産合計	102,312	101,322
無形固定資産		
その他	2,479	2,456
無形固定資産合計	2,479	2,456
投資その他の資産		
投資有価証券	26,109	27,356
長期前払費用（責任財産限定対象）	13,209	13,136
退職給付に係る資産	531	571
その他	7,926	7,770
貸倒引当金	△187	△186
投資その他の資産合計	47,589	48,648
固定資産合計	152,381	152,427
資産合計	198,769	199,338

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,848	7,939
短期借入金	4,190	4,155
1年内返済予定の長期借入金	7,626	5,710
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	1,631	17,831
未払法人税等	1,221	610
賞与引当金	459	281
その他	7,137	8,924
流動負債合計	29,114	45,452
固定負債		
社債	1,100	1,100
社債(責任財産限定)	500	500
長期借入金	24,115	25,145
長期借入金(責任財産限定)	37,616	20,776
役員退職慰労引当金	869	837
偶発損失引当金	84	84
退職給付に係る負債	1,240	1,271
資産除去債務	1,293	1,299
その他	16,718	16,501
固定負債合計	83,537	67,515
負債合計	112,651	112,968
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018	33,018
資本剰余金	30,136	30,136
利益剰余金	14,898	15,412
自己株式	△1,365	△1,374
株主資本合計	76,686	77,192
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,282	9,013
退職給付に係る調整累計額	70	75
その他の包括利益累計額合計	9,352	9,088
非支配株主持分	78	89
純資産合計	86,117	86,370
負債純資産合計	198,769	199,338

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年5月31日)
売上高	23,529	24,887
売上原価	13,211	13,709
売上総利益	10,318	11,178
販売費及び一般管理費	8,131	8,751
営業利益	2,186	2,426
営業外収益		
受取利息	3	3
受取配当金	0	0
貸倒引当金戻入額	4	4
持分法による投資利益	—	12
その他	62	20
営業外収益合計	70	40
営業外費用		
支払利息	242	228
借入手数料	44	54
持分法による投資損失	1	—
その他	82	69
営業外費用合計	371	351
経常利益	1,885	2,116
特別損失		
固定資産除却損	—	479
特別損失合計	—	479
税金等調整前四半期純利益	1,885	1,636
法人税、住民税及び事業税	875	796
法人税等調整額	△163	△238
法人税等合計	712	558
四半期純利益	1,173	1,077
非支配株主に帰属する四半期純利益	3	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,170	1,066

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年5月31日)
四半期純利益	1,173	1,077
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	737	△268
退職給付に係る調整額	6	4
持分法適用会社に対する持分相当額	0	△0
その他の包括利益合計	744	△263
四半期包括利益	1,917	814
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,914	802
非支配株主に係る四半期包括利益	3	11

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年5月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	13,207	5,802	2,555	1,963	23,529	—	23,529
セグメント間の内部売上高又は振替高	48	38	420	1,124	1,631	△1,631	—
計	13,255	5,841	2,976	3,087	25,160	△1,631	23,529
セグメント利益	1,384	332	1,122	27	2,867	△680	2,186

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△680百万円には、セグメント間取引消去16百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△697百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年5月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	映像関連事業	演劇事業	不動産事業	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	14,697	6,205	2,570	1,414	24,887	—	24,887
セグメント間の内部売上高又は振替高	27	32	407	1,002	1,469	△1,469	—
計	14,725	6,237	2,977	2,416	26,357	△1,469	24,887
セグメント利益	1,473	439	1,147	98	3,159	△733	2,426

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。
2. セグメント利益の調整額△733百万円には、セグメント間取引消去18百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△751百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。